



mandom / Human & Freedom

cleansing express

第94期
中間

株主通信

2010年4月1日～2010年9月30日まで

株式会社 **マンダム**
証券コード: 4917

企業理念

基本理念

美と健康を通じ、快適な生活にお役立ちする

経営理念

生活者発・生活者着
全員参画経営
社会との共存共栄

企業行動指針

1. 価値向上考働
2. 自己実現考働
3. 収益性向上考働
4. 倫理的考働
5. 取組先協働考働
6. 環境保全考働
7. 社会貢献考働



株主の皆さまへ	02
事業推進の概況	05
財務諸表	09
株主還元の基本方針	11
アンケート集計結果のご報告	12
株式の状況&会社概要	13
お知らせ	14

代表取締役 社長執行役員
にしむら もとのぶ
西村 元延

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろの温かいご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

第94期(2011年3月期)は、第9次中期3ヵ年経営計画(MP-9、以下MP-9と記載)の最終年度にあたります。MP-9は、「新たな成長路線づくりにより、今後の持続的な成長を軌道に乗せるための中期経営計画」と位置付け、3ヵ年を通して「コア事業である男性グルーミング事業の安定的成長」、「新たな成長領域として女性分野(女性コスメタリー事業・女性コスメティック事業)の成長路線づくり」、「成長エンジンとして海外事業の継続強化」の3つを戦略テーマとして各事業を推進しております。

それでは、終了いたしました第94期第2四半期(2010年4月1日～2010年9月30日)の業績についてご報告申し上げます。

第94期(2011年3月期)第2四半期累計業績の概況

当期は、アジア市場が回復傾向にあるものの、国内においてはデフレ状況や円高の影響など依然厳しい市場環境が続く中で、先に述べた戦略テーマを継続して推進することで成長路線への回帰と収益性の回復を目指して取り組んでおります。

■ 連結売上高について

連結売上高 **311億92百万円**(前期比 6.0%増)

国内、海外ともに増収となり、
半期ベースで過去最高売上

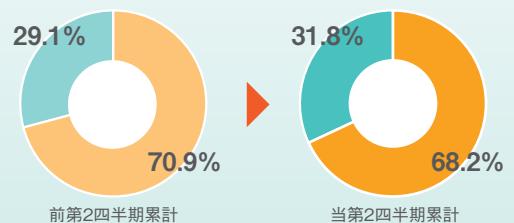
連結売上高は前期より17億54百万円増収の311億92百万円(前期比6.0%増)となりました。

国内では、「ギャツビー」が夏シーズン品の牽引により売上を拡大し、既存品が伸び悩んだものの、1.8%の増収となりました。

海外では、現地通貨ベースでインドネシアにおける売上高が前年同期とほぼ同水準だったものの、その他の地域が順調に売上を伸ばしたことに加え、アジアにおける現地通貨高で円換算額が増加したことにより、16.0%の増収となりました。

この結果、当第2四半期における売上高に占める海外の売上高比率は、前期よりも2.7ポイント上がり、31.8%となりました。

地域別売上高 同期構成比推移



■ 連結利益について

連結営業利益	43億67百万円 (前期比 5.0%増)
連結経常利益	45億44百万円 (同 2.8%増)
連結四半期純利益	21億 2百万円 (同 13.4%減)

原価の見直しや販管費の効率化により
 連結営業利益、連結経常利益は増益、
 連結当期純利益は過年度法人税等の計上により減益

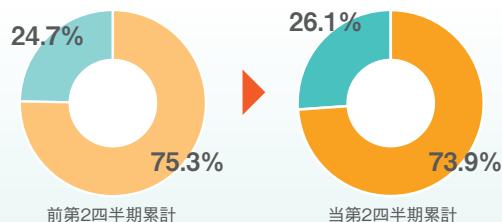
連結営業利益は、海外を中心としたマーケティングの強化や原材料費の高騰があったものの、増収効果に加え、原材料の見直しやペーパー商材の内製化による原価低減により、前期より2億6百万円増益の43億67百万円(前期比5.0%増)となり、経常利益は前期より1億25百万円増益の45億44百万円(前期比2.8%増)となりました。

この結果、営業利益における海外比率は前期よりも1.4ポイント上がり、26.1%となりました。

連結四半期純利益は、過年度法人税等の計上により、前期より3億24百万円減益の21億2百万円(前期比13.4%減)となりました。

中間配当金については、予定通り1株あたり30円とさせていただきますことを合わせてご報告申し上げます。

地域別営業利益 同期構成比推移



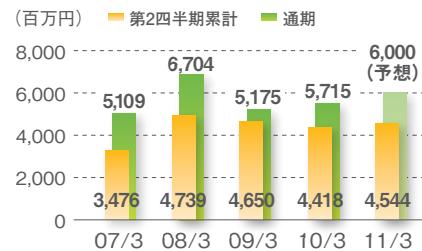
売上高



営業利益



経常利益



第94期(2011年3月期)通期業績の見通し

■ 連結売上高および連結利益見通しについて

連結売上高	578億円 (前期比 6.4%増)
連結営業利益	59億50百万円 (同 10.8%増)
連結経常利益	60億円 (同 5.0%増)
連結当期純利益	28億10百万円 (同 0.3%増)

過年度法人税等の計上にともない
 連結当期純利益を下方修正するも、
 連結売上高・連結営業利益・連結経常利益は
 当初計画通り
 国内・海外でマーケティング強化を図り、
 増収増益を目指す

国内では、既存品の伸び悩みに対応した商品の拡充やマーケティングの強化を図り、海外ではインドネシアで女性コスメティックを中心としたマーケティングの強化と、その他展開各国でさらなるマーケティング強化を図ることで売上の拡大に取り組んでまいります。

これらの取り組みにより、第94期(2011年3月期)通期見通しは、連結当期純利益については過年度法人税等の計上にともない下方修正をいたしますが、連結売上高・連結営業利益・連結経常利益については当初計画を据え置き、連結売上高は578億円(前期比6.4%増)、連結営業利益は59億50百万円(前期比10.8%増)、連結経常利益は60億円(前期比5.0%増)、連結当期純利益は28億10百万円(前期比0.3%増)の達成を目指してまいります。

なお、当期の配当金については、1株あたり中間30円・期末30円の年間60円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

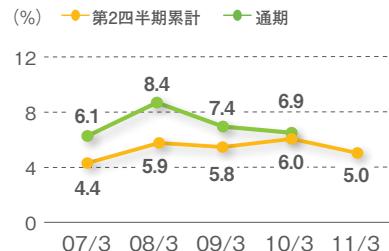
2010年12月



四半期(当期)純利益



自己資本当期純利益率 (ROE)



1株当たり四半期(当期)純利益 (EPS)



男性グルーミング事業

男性の日常の身だしなみやおしゃれ全般に使用する商品群で、安定成長を目指すマダムグループのコア事業です。



グループのコア事業である男性グルーミング事業のグループ売上高は、前期比6.8%の増収となりました。

【国内】

国内では、フェイス&ボディカテゴリーの好調な推移により「ギャツビー」が好調に伸長し、増収となりました。

「ギャツビー」は、商品面では、スタイリングカテゴリーにおいて、新剤型のウォーターワックス「**ギャツビー クイックムービングローション**」を発売しました。スタイリング市場における主剤型であるヘアワックスの「ギャツビー ムービングラバー」を中心として提案している「ムービングスタイル」のアイテム拡充を行うことで、生活者の多様化するヘアスタイリングウォンツに対応しました。

マーケティング面では、今年の猛暑や生活者の高まるケア意識に対し、**夏シーズン品のプロモーション展開**や販売促進を行うなど徹底した店頭展開強化に取り組みました。



「ギャツビー クイックムービングローション」



夏シーズン品のプロモーション展開

また、引き続きイメージキャラクターに木村拓哉さんを起用したCM・ウェブ・雑誌などのクロスメディアによるコミュニケーションで、新剤型「ギャツビー クイックムービングローション」の認知拡大、理解浸透に取り組んでいます。また店頭においても、それらと連動した提案型の店頭展開を行うことで、店頭競争力強化と生活者との接点拡大に取り組んでいます。

WATER WAX

ついに登場!!!



引き続き「木村拓哉」さんを起用

「ルシード」は、今後、成長が有望な市場であるアラフォーと呼ばれる40歳代前後のミドル世代へのエイジングケア提案に引き続き取り組んでいます。スキンケア経験のまだまだ少ないこの層に対し、新聞、雑誌、交通機関などでの広告展開などでケア意識の向上に取り組むとともに、サンプリングキャンペーンを実施することで、スキンケア効果の実感による使用習慣の提案を行っています。

【海外】

海外では、現地通貨ベースで「ギャツビー」を中心に好調に伸長したことに加え、為替のプラス影響により、円換算ベースでは大幅増収となりました。

「ギャツビー」は、商品面では、インドネシアにおいて、**デオドラントパフュームスプレー**や**ロールオンタイプのデオドラントの新製品を発売**し、フェイス&ボディカテゴリーのアイテム拡充を行いました。またNIESエリアにおいて、日本で好調な「ギャツビー洗顔シリーズ」の水平展開を開始し、スキンケア意識の高まりに対応するとともに、市場拡大に取り組んでいます。



「ギャツビー デオドラントパフュームスプレー」

マーケティング面では、インドネシアで発売したデオドラントパフュームスプレーのCMを投下し、認知拡大とブランドイメージの向上に取り組んでいます。また、前期リニューアル発売したヘアワックスシリーズについても、展開各国でイベントやプロモーションを実施するなど販促強化に取り組んでいます。

また、今年で5回目となる「ギャツビー学生CM大賞」を、今回は日本、香港、韓国に、インドネシアを加えた4カ国で開催しました。若者に国境を越えた文化交流の場を提供するとともに、「ギャツビー」を若者文化の一つとしての浸透に取り組んでいます。

化粧品使用時の「ピリピリ」「ヒリヒリ」の 感覚刺激のメカニズムを解明

化粧品を使用したときに、感じることもある「ピリピリ」「ヒリヒリ」といった刺激は、皮膚の炎症と捉えられがちですが、そうでないものも多く存在します。当社は、安全なものを安心して使用していただくために、この感覚刺激のメカニズムを解明し、感覚刺激とそれを受容する刺激受容体「TRPチャネル」との相関関係を解明しました。これを応用した評価法により、「より快適に」「より安心して」使っていただける商品の開発に取り組んでいます。なお本件は、第26回国際化粧品技術者会 (IFSCC) にて、発表しました。

詳しくはこちら「ニュースリリース」

<http://www.mandom.co.jp/release/2010/src/2010092201.pdf>

女性コスメタリー事業

ヘアスタイリングやフェイス&ボディケアなど、日常の身だしなみやおしゃれに使用する商品群で、新たな成長領域として成長路線作りを目指す事業です。



女性コスメタリー事業のグループ売上高は、前期比10.1%の減収となりました。

【国内】

商品面では、「ルシードエル」が、成長市場であるアウトバストリートメント市場において、「ルシードエル ヘアトリートメントジェルオイル」を発売し、アイテム拡充を行いました。また人気の高い巻き髪スタイルに対して、髪なじみのいいジェリータイプの整髪剤「ルシードエル デザイニングポンプ」を発売し、ラインナップの強化に取り組みしました。



「ルシードエル ヘアトリートメントジェルオイル」

マーケティング面では、雑誌やウェブサイトにおいて、スタイル提案や使い方解説などの商品紹介を行い、商品理解とブランドイメージの向上に取り組んでいます。

事業推進の概況

【海外】

海外は、「ピュセル」が伸び悩み、減収となりました。

商品面では、「ピュセル」が、ボディフレグランスシリーズ「ジャパニーズシーズンズ」から、トレンドに合わせた新香調2品を追加発売し、ラインナップの強化に取り組みました。



「ピュセル ジャパニーズシーズンズ」

マーケティング面では、**新製品のCM投下や積極的な店頭プロモーションを実施し**、認知拡大に取り組んでいます。



ウェブ広告

女性コスメティック事業

メイクアップやスキンケアなど女性のビューティーライフに彩りを添える商品群で、新たな成長領域として成長路線作りを目指す事業です。



女性コスメティック事業のグループ売上高は前期比11.7%の増収となりました。

【国内】

国内は、女性コスメティック事業のアイテム効率向上を目的に展開カテゴリーを一部見直したため、減収となりました。

商品面では、好調なクレンジングシリーズ「**クレンジングエクスプレス**」が、「**クレンジングリキッド**」を発売し**アイテム拡充**を行い、生活者の使用シーンや剤型のウオッシュに対応しました。また高保湿スキンケアシリーズ「**バリアリヘア**」が、新たにクレンジングクリームや洗顔料などを発売し、アイテム拡充を行いました。



ラインナップ強化をした「クレンジングエクスプレスシリーズ」

マーケティング面では、ターゲットにあわせた交通広告やウェブサイトを活用した広告展開により、認知拡大や商品理解の向上に取り組んでいます。

【海外】

海外は、「ピクシー」が、スキンケアシリーズ・メイクアップシリーズ共に好調に伸長し、増収となりました。

商品面では、「ピクシー」が、メイクアップシリーズにおいて、**全面リニューアルを実施**しました。

マーケティング面では、**メイクアップシリーズのリニューアルにともない、イメージキャラクターを刷新**し、インドネシアにおいて、CM投下や、イベントなどの実施により、認知拡大とイメージの向上に取り組んでいます。



「ピクシー メイクアップシリーズ」



新イメージキャラクター

低分子ヒアルロン酸の「荒れ肌改善効果」を発見

当社は、生活者が「なりたい理想の肌」を実現できるよう、肌をより良くする成分の研究を行っています。その一環として、保湿成分として知られるヒアルロン酸の研究において、低分子ヒアルロン酸が、荒れ肌に対し水分バリア機能を回復するのに加え、肌内部で高分子ヒアルロン酸を産生し水分保持力を高めることを明らかにしました。この研究成果を応用し、より満足して使っていただけるスキンケア商品の開発に取り組んでいきます。

詳しくはこちら「ニュースリリース」

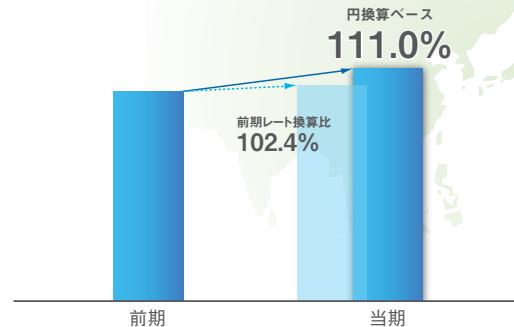
<http://www.mandom.co.jp/release/2010/src/2010053101.pdf>

海外事業

今後も高い成長が望める海外事業は、引き続きグループ経営の成長エンジンとして位置づけ、前中期経営計画にて戦略展開してきた累積効果を活かし、各国の市場環境に適応した展開強化を行っています。

展開各国において、現地通貨ベースで概ね堅調に推移した結果、海外グループ売上高全体で前期レート換算による前年比が102.4%の増収となりました。さらに、為替のプラス影響により、円換算による前年比が111.0%と売上規模が拡大しました。各国においては、それぞれの地域特性にあった商品およびマーケティング展開を行っています。

■海外事業グループ売上高伸長率



中国

成長著しい女性スキンケア市場に対し、商品展開を開始しました。日本で展開している女性コスメティックの技術を活かし、中国の女性ウォンツに対応した中国専用商品「バリアモイスト」を開発し、販売強化に取り組むことにより、市場への浸透を図っていきます。



「バリアモイスト」

財務諸表(連結)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2010年9月30日現在	前 期 2010年3月31日現在	前第2四半期 2009年9月30日現在
(資産の部)			
① 流動資産	34,389	32,918	32,979
固定資産	20,713	21,263	20,446
有形固定資産	12,841	12,960	12,018
無形固定資産	585	616	656
② 投資その他の資産	7,286	7,686	7,770
資産合計	55,103	54,182	53,425
(負債の部)			
流動負債	7,125	7,226	6,639
固定負債	1,950	1,896	1,736
負債合計	9,076	9,123	8,376
(純資産の部)			
株主資本	47,646	46,245	46,572
資本金	11,394	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235	11,235
利益剰余金	26,865	25,463	25,789
自己株式	△ 1,848	△ 1,847	△ 1,847
③ 評価・換算差額等	△ 5,188	△ 4,752	△ 4,790
少数株主持分	3,568	3,565	3,267
純資産合計	46,026	45,058	45,049
負債純資産合計	55,103	54,182	53,425

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
売上高	31,192	29,437
売上原価	13,986	13,024
売上総利益	17,205	16,412
販売費及び一般管理費	12,838	12,252
営業利益	4,367	4,160
営業外収益	218	338
営業外費用	40	80
経常利益	4,544	4,418
特別利益	10	7
特別損失	36	25
税金等調整前四半期純利益	4,518	4,400
法人税等	1,764	1,718
過年度法人税等	390	—
少数株主損益調整前四半期純利益	2,363	—
少数株主利益	260	254
四半期純利益	2,102	2,427

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2010年4月 1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期 2009年4月 1日から 2009年9月30日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,142	4,897
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,738	△ 3,811
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 954	△ 1,585
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 33	126
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△ 584	△ 373
現金及び現金同等物の期首残高	9,742	9,235
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△減少)	—	△ 41
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,158	8,820

財務諸表(単体)

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表のPOINT

POINT ① 「流動資産」

運用資金の長期から短期へのシフト、運用資金の増加により有価証券が増加しました。

POINT ② 「投資その他の資産」

運用資金の長期から短期へのシフトにより投資有価証券が減少しました。

POINT ③ 「評価・換算差額等」

海外における現地通貨安による為替の影響、国内における有価証券の時価評価での目減りにより減少しました。

※ 貸借対照表と損益計算書では、海外通貨の換算レートが異なります。

POINT ④ 「営業活動によるキャッシュ・フロー」

主に、利益の増加、過年度法人税等にともない法人税等の支払額が増加しました。

POINT ⑤ 「投資活動によるキャッシュ・フロー」

主に、有価証券の売買による収入が増加しました。

POINT ⑥ 「財務活動によるキャッシュ・フロー」

自己株式の取得による支出が減少し、配当金の支払額が増加しました。

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2010年9月30日現在	前 期 2010年3月31日現在	前第2四半期 2009年9月30日現在
(資産の部)			
流動資産	24,373	22,939	23,816
固定資産	24,047	24,597	23,846
有形固定資産	9,475	9,612	8,722
無形固定資産	285	294	292
投資その他の資産	14,286	14,691	14,831
資産合計	48,421	47,537	47,662
(負債の部)			
流動負債	5,557	5,799	5,220
固定負債	1,503	1,471	1,348
負債合計	7,061	7,270	6,568
(純資産の部)			
株主資本	41,870	40,545	41,225
資本金	11,394	11,394	11,394
資本剰余金	11,235	11,235	11,235
利益剰余金	21,088	19,763	20,442
自己株式	△1,848	△1,847	△1,847
評価・換算差額等	△510	△277	△131
純資産合計	41,359	40,267	41,094
負債純資産合計	48,421	47,537	47,662

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで
売上高	21,990	21,470
売上原価	9,569	9,393
売上総利益	12,421	12,077
販売費及び一般管理費	9,022	8,873
営業利益	3,398	3,203
営業外収益	567	616
営業外費用	29	35
経常利益	3,936	3,784
特別利益	0	1
特別損失	35	25
税引前四半期純利益	3,900	3,760
法人税等	1,483	1,412
過年度法人税等	390	—
四半期純利益	2,026	2,347

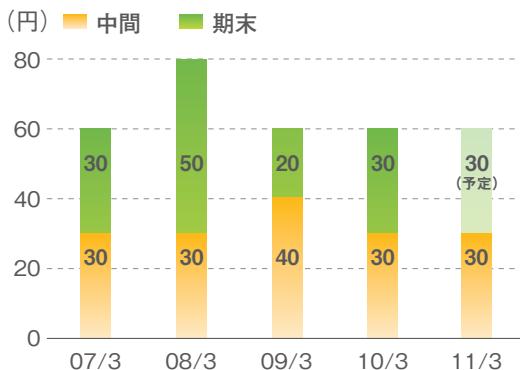
株主還元の基本方針

》》 配当に関して

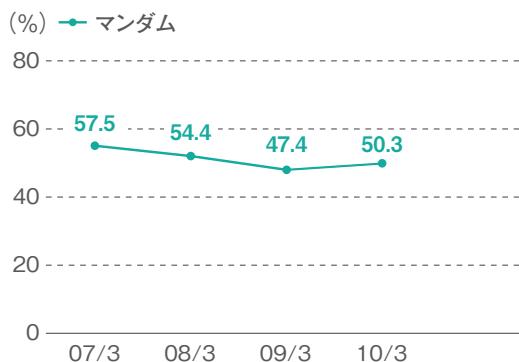
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、中長期的な事業拡大、新規事業開拓及び企業リスク対応のための内部留保に配慮しつつ、配当金による株主還元を優先的に実施することを基本方針としており、連結ベースでの配当性向40%以上を目標としております。

なお、当期の中間配当金は1株あたり30円とさせていただきます。

配当金



配当性向



ご参考

配当利回り

(%) ● マンダム ● 業種平均(化学)※



※東証一部上場企業(無配企業を含む)の化学業種平均
(各年3月末日現在、ただし、11/3期のみ9月末日現在の株価にて算出)
出所:東京証券取引所「東証統計月報」

》》 株主優待に関して

当社は、株主の皆さまに対する利益還元の一環として、株主優待を行っております。100株以上の株式を所有(3月31日現在)の皆さまに、年1回5,000円相当の当社詰め合わせを、6月初旬にお届けしております。優待商品は、株主の皆さまからのご要望・市場での動向を踏まえ、新製品を中心に当社のおすすめの商品を選定しております。

株主の皆さまに、商品をお使いいただき、マンダムをより身近に感じていただきたいと考えております。

2010年実施
株主優待
詰め合わせ



アンケート集計結果のご報告



「株主の皆さまへのアンケート」に、ご協力ありがとうございました。

当社が株主通信<第93期年間>で実施いたしました「株主の皆さまへのアンケート」において、数多くのご回答をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

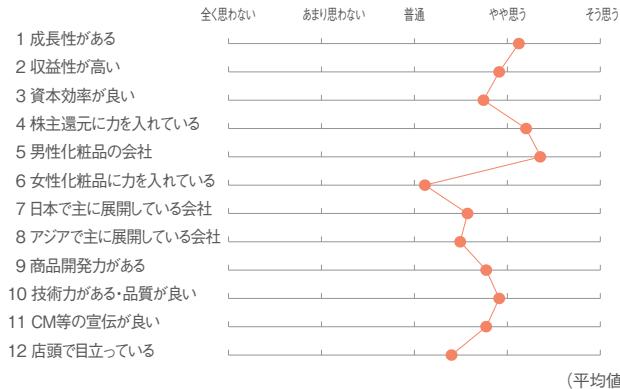
皆さまからいただきましたご回答・ご意見は、

今後の事業活動やIR活動の参考にさせていただきたいと考えております。

また、アンケートにおきまして一部不備があり、

ご回答時にご不便・ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

Q. マンダムに対してどのようなイメージをお持ちですか？



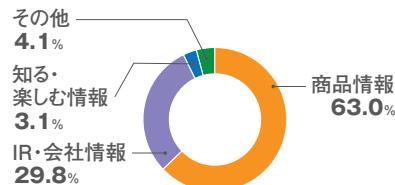
全ての項目においてイメージを持っていただいておりますが、中でも特に、「成長性がある」「還元を力を入れている」「男性化粧品の会社」というイメージが強く、反面「女性化粧品に力点」「アジアで主に展開」「店頭で目立っている」というイメージは弱い結果となっております。

当社では中期経営計画において、コア事業である「男性化粧品」の安定成長を図るとともに、「新たな成長領域として女性分野における成長路線づくり」「海外事業の継続強化」に取り組んでいます。

Q. マンダムのウェブサイトをご覧になられたことはありますか？



Q. (Yesの方に) 何をご覧になりましたか？



当社ウェブサイトをご覧になった方は17.8%という結果になりました。ご覧になられた方は、商品情報を中心にご覧になっています。

個人株主さまに対して発信させていただいている情報において、当社ウェブサイトの情報が最新情報となっております。また、今後なお一層の充実を図ってまいりますので、ご覧いただきますようお願いいたします。

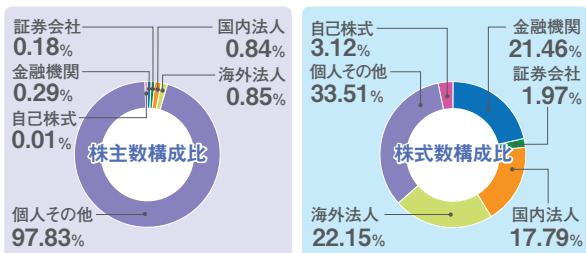
<http://www.mandom.co.jp/>

株式の状況

株式の状況

[2010年9月30日現在]

- 発行可能株式総数 81,969,700 株
- 発行済株式総数 24,134,606 株
- 株主数 16,586 名
- 株式分布状況



大株主

[2010年9月30日現在]

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の比率 (%)
公益財団法人西村奨学財団	1,800	7.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,500	6.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,269	5.26
西村 元延	1,005	4.16
株式会社マンダム	753	3.12
西村 輝久	751	3.11
マンダム従業員持株会	743	3.08
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	623	2.58
BNP PARIBAS SEC SVC LONDON/JAS/ABERDEEN INVESTMENT FUNDS ICVC/AGENCY LENDING	505	2.09
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	501	2.08

(注)所有株式数は千株未満で切り捨てています。

株価推移



会社概要

会社概要

[2010年9月30日現在]

- 社名 株式会社マンダム
- 本社 大阪市中央区十二軒町5番12号
- 設立 1927年12月23日
- 資本金 11,394,817,459円
- 従業員 546名(連結2,263名)
- 事業内容 化粧品、香水の製造および販売
医薬部外品の製造および販売
- HPアドレス <http://www.mandom.co.jp/>

株式会社マンダムはISO14001(福岡工場)とISO9001(営業部門を除く本社・福岡工場)を認証取得しております。

※ISO9001審査登録範囲:株式会社マンダムが製造販売元となる化粧品・医薬部外品(但し、輸入品を除く)の設計・開発、製造及び出荷

取締役および監査役

[2010年9月30日現在]

代表取締役	社長 執行役員	西村 元延
代表取締役	副社長 執行役員	亀井 浩
取締役	専務 執行役員	桃田 雅好
取締役	常務 執行役員	山田 憲治
取締役	常務 執行役員	斉藤 嘉昭
取締役	常務 執行役員	寺林 隆一
社外取締役	取締役	塚田 疆
社外取締役	取締役	田村 敏和
常勤監査役	監査役	安井 博史
社外監査役	監査役	松尾 史治
社外監査役	監査役	小寺 一矢
社外監査役	監査役	高木 進

※第93回定時株主総会(第5号議案)において補欠監査役に選任されました

小寺陽平氏は、平成22年11月に辞任いたしました。

グループ会社

[2010年9月30日現在]

● 国内

株式会社ピアセラボ	
株式会社ギノー・ジャパン	※1
株式会社エムビーエス	※2

● 海外

PT Mandom Indonesia Tbk	インドネシア
Mandom Corporation (Thailand) Ltd.	タイ
Mandom Philippines Corporation	フィリピン
Mandom (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア
Mandom Corporation (Singapore) Pte Ltd	シンガポール
Mandom Taiwan Corporation	台湾
Sunwa Marketing Co., Ltd.	中国(香港) ※3
Mandom Korea Corporation	韓国
Zhongshan City Rida Fine Chemical Co., Ltd.	中国(中山)
Mandom China Corporation	中国(上海)

※1 株式会社ギノー・ジャパンは、株式譲渡により、10月1日からマンダムグループより外れております。

※2 非連結子会社 ※3 持分法適用関連会社

お知らせ

■ 特別口座で株式をご所有の株主さま

特別口座から一般口座への振替のお願い

>>>特別口座の株式はそのままではご売却いただけません

株券電子化に際し、証券会社の口座にお預けにならなかった当社株式は住友信託銀行株式会社にある「特別口座」にて管理しています。「特別口座」では株式の売買はできません。証券会社等の口座への振替をお勧めします。具体的なお手続きにつきましては、下記の住友信託銀行株式会社証券代行部にご連絡ください。



お手続きおよびお問い合わせは >>> 住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-176-417

■ 100株未満(単元未満)をご所有の株主さま

100株に満たない株式の買増・買取をご検討ください

>>>手数料無料で、株式の買増・買取をおこなっています。当社株式は100株単位(1単元)となっており、単元未満株式(1~99株)を市場で売買することはできません。当社では、手数料無料による「単元未満株式買増制度」および「単元未満株式買取制度」を採用していますので、いずれかをお手続きください。(ただし、証券会社等を通じてお取引された場合は、別途手数料が徴収される場合がございます。)具体的なお手続きにつきましては、証券会社等に口座を開設されている株主さまは、お取引証券会社等にご連絡ください。それ以外の株主さまは、上記の住友信託銀行証券代行部にご連絡ください。

● 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式を単元株式(100株)とするために、必要な株式を当社から買受けいただける制度です。単元株式になれば、市場での売却が可能です。



● 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。



■ 上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正(平成20年4月30日法律第23号)により、当社のお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主さま宛てにお送りすることになっております。(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります。)なお、「支払通知書」は、株主さまが確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください。)

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
〔そのほか、必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日〕

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、下記の電話照会先にご連絡ください。

- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701
- 郵便物送付先 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-176-417
- 電話照会先
- ホームページアドレス <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html/>
- 公告の方法 当社のホームページに掲載します。
<<http://www.mandom.co.jp/>>
ただし、事故その他のやむを得ない事由の場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 株主優待 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主さまに対し、5,000円相当の当社製品を6月初旬に贈呈します。
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部



環境に配慮し、大豆油インキと再生紙を使用しております。



当社のより詳しい情報・最新の情報はホームページでご覧いただけます。



<http://www.mandom.co.jp/>



お問い合わせ先

株式会社マンドム 広報IR室

〒540-8530 大阪市中央区十二軒町5番12号
Tel:06-6767-5020 Fax:06-6767-5043

未来が変わる。
日本が変わる。
チャレンジ
25

